

製品名: HSP27 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12243**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	HSPB1 HSPB1; HSP27; HSP28; Heat shock protein beta-1; HspB1; 28 kDa heat shock protein;
別名	Estrogen-regulated 24 kDa protein; Heat shock 27 kDa protein; HSP 27; Stress-responsive protein 27; SRP27
遺伝子 ID	3315.0
SwissProt ID	P04792
免疫原	抗血清はヒト HSP27 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 48-97

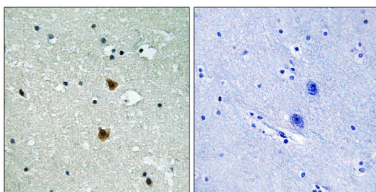
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、環境ストレスや発達変化によって誘導されます。コードされるタンパク質はストレス耐性とアクチン組織化に関与し、ストレス誘導時に細胞質から核へと移行します。この遺伝子の欠陥は、シャルコー・マリー・トゥース病 2F 型 (CMT2F) および遠位遺伝性運動ニューロパチー (dHMN) の原因となります。[RefSeq 提供、2008 年 10 月]、疾患: HSPB1 の欠陥は、遠位遺伝性運動ニューロパチー 2B 型 (HMN2B) の原因となります[MIM:608634]。遠位遺伝性運動ニューロパチーは、脊髄前角の運動ニューロンの選択的障害によって引き起こされる、神経筋疾患の異質なグループです。脊髄後角の感覚障害は伴いません。全体的な臨床像は、臨床的な感覚喪失を伴わない、脚の古典的な遠位筋萎縮症候群です。この疾患は、脚の前脛骨筋と腓骨筋の遠位筋の筋力低下と萎縮で始まります。後に、筋力低下と萎縮は下肢近位筋および/または上肢遠位筋に拡大することがあります。疾患: HSPB1 の欠陥は、シャルコー・マリー・トゥース病 2F 型 (CMT2F) [MIM: 606595]の原因です。CMT2F は、末梢神経系の最も一般的な遺伝性疾患であるシャルコー・マリー・トゥース病の一種です。シャルコー・マリー・トゥース病は、電気生理学的特性と組織病理学に基づいて、原発性末梢脱髄性ニューロパチー (CMT1) と原発性末梢軸索性ニューロパチー (CMT2) の 2 つの主要グループに分類されます。CMT2 群の神経障害は、明らかなミエリン変化を伴わない軸索再生の徴候、正常またはわずかに低下した神経伝導速度、進行性の遠位筋の筋力低下および萎縮を特徴とする。神経伝導速度は正常またはわずかに低下している。CMT2F は 15 ~ 25 歳で発症し、筋力低下および萎縮は通常、足と脚 (腓骨筋分布) から始まる。上肢の障害は後に起こる。CMT2F の遺伝形式は常染色体優性である。機能: ストレス耐性およびアクチン組織化に関与する。誘導: 熱ショックなどの環境ストレス、または MCF-7 細胞におけるエストロゲン刺激に反応して発現する。PTM: タンパク質キナーゼ C 活性化因子および熱ショックにさらされた MCF-7 細胞においてリン酸化される。類似性: 低分子熱ショックタンパク質 (HSP20) ファミリーに属する。細胞内局在: 間期細胞有糸分裂細胞において有糸分裂紡錘体と共局在する。熱ショック時に核へ移行する。サブユニット: TGFβ11 と相互作用する (相同性による)。α-チューブリンおよび β-チューブリン、微小管、CRYAB と関連する。HSPB8 および HSPBAP1 と相互作用する。組織特異性: 試験した全ての組織で検出: 骨格筋、心臓、大動脈、大腸、小腸、胃、食道、膀胱、副腎、甲状腺、膵臓、精巣、脂肪組織、腎臓、肝臓、脾臓、大脳皮質、血清、脳脊髄液。最も高い濃度は心臓、および横紋筋と平滑筋からなる組織で認められる。

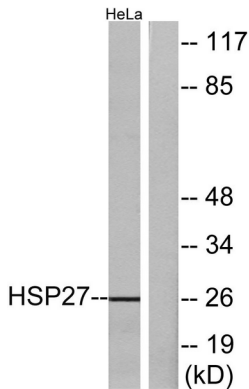
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;VEGF;

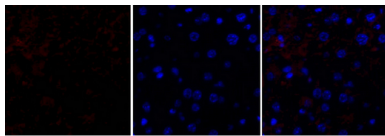
画像データ



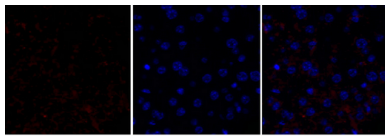
HSP27 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



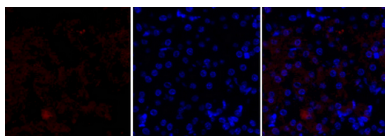
Ca²⁺処理した HeLa 細胞ライセートの HSP27 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



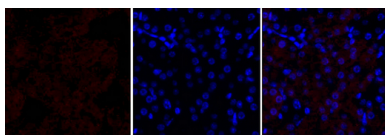
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, HSP27 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



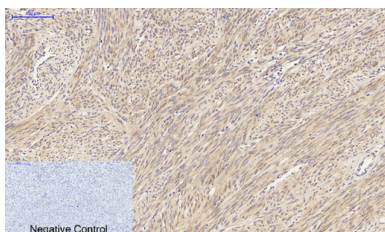
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, HSP27 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



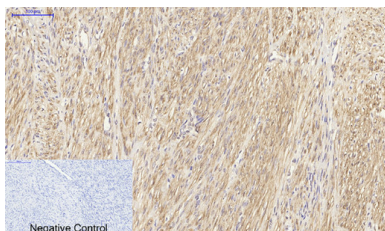
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, HSP27 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



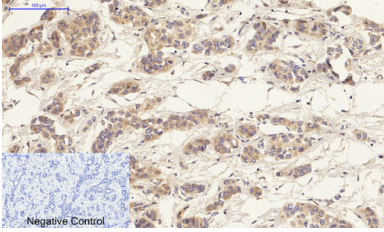
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, HSP27 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. HSP27 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. HSP27 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. HSP27 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。